
本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.86 です。

===== 目次 =====

【事務局からのお知らせ】 会員動向 (2005年8月31日現在数 682名, 専門医 509名)

【会長選挙結果報告】

【第22回臨床検査専門医認定試験合格者】

【WHO トピックス】 WHO が津波の被災地で長期間にわたる健康支援

<Press June 2005 WHO-188>

【M.A.N(Medical Academy News)】

===== JACLaP WIRE =====

【事務局からのお知らせ】 会員動向 (2005年8月31日現在数 682名, 専門医 509名)

【所属・その他変更】

石井周一 先生：旧 JR 東京総合病院内分泌内科
新 JR 東日本高崎鉄道検診センター 所長
菊井正紀 先生：旧 大阪府立羽曳野病院臨床病理検査科
新 大阪府医師会保健医療センター
藤巻 淑 先生：旧 群馬大学医学部臨床検査医学講座
新 辻堂クリニック

【訃報】

日本臨床検査専門医会 名誉会員
斉藤正行 先生：北里大学名誉教授 8月27日 ご逝去
ご冥福をお祈り申し上げます。

【総会・講演会のお知らせ】

今年度第2回目の総会・講演会が福岡で開催されます。第52回日本臨床検査医学会・第42回日本臨床化学会年会 連合大会に合わせて行われます。後ほど、日程が確定次第、出欠の確認の連絡をいたしますが、御参集をお願いいたします。

開催予定会場：福岡国際会議場・第一会場

開催予定日時：総会 平成17年11月17日 午後3時～4時

講演会 平成17年11月17日 午後4時～5時

演題 「専門医制度について」

演者 日本医師会 常任理事

橋本 信也 先生

【会費納入について】

今年度もすでに8ヶ月がすぎました。多くの会員の先生方からは既に会費の振り込みを頂いていますが、まだお支払い頂いていない先生もいらっしゃいます。

日本臨床検査専門医会の活発な活動は会員の会費によって支えられています。未納の先生には再度振り込み用紙を送付することを予定しております。会費の振り込みをよろしくお願いいたします。

会費の振り込み状況の確認は事務局まで E-mail あるいは FAX でお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE などの電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。

住所、所属の変更時およびE-mail addressの変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。

所属、住所変更時は、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAXあるいはE-mailでご連絡ください。

===== JACLaP WIRE =====

【日本臨床検査専門医会会長・監事選挙結果】

会長選挙結果

投票総数 309票、有効投票数 304票

1位	森 三樹雄	191票
次点	玉井誠一	75票

監事選挙結果

1位	玉井誠一	46票
2位	濱崎直孝	35票
次点	中原一彦	33票

平成17年8月24日

選挙管理委員会
委員長 池田 斉

===== JACLaP WIRE =====

第22回臨床検査専門医認定試験合格者(24名)

日時：平成17年8月6日/7日

会場：関西医科大学 実行委員長：高橋伯夫(関西医科大学)

認定日：平成17年8月20日

認定#	氏名	所属
662	明比 祐子	福岡大学病院臨床検査医学
663	浅井さとみ	東海大学医学部臨床検査医学教室
664	五十嵐俊彦	新潟県厚生連病理センター病理科
665	江石 義信	東京医科歯科大学医学部病院病理部
666	岡田 仁克	大阪医科大学第二病理学教室
667	神尾多喜浩	済生会熊本病院中央検査センター病理
668	河野 誠司	神戸大学大学院医学研究科臨床病態免疫学
669	河野 尚美	横浜南共済病院病理検査科
670	木下 喜光	大阪市立大学医学部臨床検査医学
671	車谷 宏	石川県立中央病院病理
672	黒滝日出一	大館市立総合病院臨床検査科
673	末広 寛	山口大学医学部臨床検査医学講座
674	高木 潤子	愛知医科大学臨床検査医学
675	田中 郁子	藤田保健衛生大学医学部臨床検査部
676	東條 尚子	東京医科歯科大学臨床検査医学
677	中谷 中	三重大学医学部臨床検査医学講座
678	登 勉	三重大学医学部臨床検査医学講座
679	濱中裕一郎	山口大学医学部臨床検査医学講座
680	正木 浩哉	関西医科大学臨床検査医学講座
681	宮澤 幸久	帝京大学付属病院中央検査部
682	森内 昭	医療法人社団高邦会高木病院

683 吉田 博 東京慈恵会医科大学柏病院内科総合診療部
684 若木 邦彦 新潟県立新発田病院病理検査科
685 渡辺 和子 岐阜県立多治見病院病理診断部

合格おめでとうございます。

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス】WHO が津波の被災地で長期間にわたる健康支援
<Press June 2005 WHO-188 >

2004年12月26日のインド洋津波大震災から6か月経過し、WHOの支援で被災国における医療施設の復興と再生が行われている。多くの津波被災国では、医療システムが津波によって破壊された。インドネシアのアチェでは244の医療施設のうち53施設が破壊または高度の損害を受け、地方医療管理事務所のスタッフ497名のうち57名が死亡、59名が行方不明になった。被災国で破壊された医療施設に対して、WHOが技術的支援および医薬品への援助を行っている。津波震災のあとで、多くの人々が強制移住させられ、混雑している住居の中で感染症が広がる恐れがあるが、WHOの調査チームの努力により、352の病人に対し適切な対応が行われた。インドのTamil Nadu州では、最も損害の大きかった4カ所の被災地で、病気発生、飲料水の確保、昆虫由来の感染症の調査と対応が行われた。モルジブでは公立の医療相談所が開設され、精製水の提供、食物中の化学物質と細菌の汚染のモニタリングについて調査している。この他、被災者のメンタルヘルスも重要な課題である。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【M.A.N(Medical Academy News) 8月1日号】

POCTの明確な定義づけが必要

日本臨床検査自動化学会 POC 推進委員会副委員長 〆谷氏が指摘

簡易機器や迅速キットを用いて患者のすぐそばで検査を行い、治療に役立つ Point Of Care Testing (POCT) という言葉をよく耳にするようになったが、日本臨床検査自動化学会の POC 推進委員会副委員長でもある〆谷直人氏(獨協医科大学越谷病院臨床検査部)は、「POCTの普及に伴い、いくつかの問題点が出てきている」と指摘する。ポータブル分析器の場合、米国では医療スタッフが院内で行い、しかも機器は院内ネットワークとつながっていなければ POCT と言えないが、日本ではまだ定義づけがあいまい。今後、多種多様な簡易機器が開発されれば、それらが無秩序に使われてしまう危険性がある。実際、患者のモニタリングに使われる機器が診療に用いられ、医療事故につながったこともある。〆谷氏は、「POCTは便利さのみが強調される傾向にあるが、デメリットにも目を向ける必要があるのでは」との考えを示した。

最近になって、POCT という言葉を耳にすることが多くなっていることもあり、言葉だけが広まる前に何をもって POCT とするかを POC 推進委員会で検討しているという。

栄養療法に検査技師の関与を

第23回日本臨床検査専門医会振興会セミナー

第23回日本臨床検査専門医会振興会セミナー「臨床検査の新展開」が7月22日、東京湯島の東京ガーデンパレスで開かれ、栄養管理における臨床検査の注意点が、橋詰直孝氏(和洋女子大学家政学部健康栄養学科)から報告された。適切な栄養療法の実践には、臨床検査や栄養量調査が欠かせない。NST(栄養サポートチーム)が広がりを見せるなか、栄養アセスメント蛋白の測定など臨床検査技師が栄養管理に果たす役割も大きくなっている。橋詰氏は「栄養アセスメントに利用される栄養指数は検査技師が測定するべきだ」と語り、NSTへの積極的な参画を求めた。

ポータブル CPAP 装置「スリープメイト S8」

帝人ファーマ

帝人ファーマは7月22日、カードで機器の条件設定や使用状況の管理を行うことができる小型の睡眠時無呼吸症候群（SAS）治療装置「スリープメイト S8」を発売した。販売価格は35万円、レンタル価格は1万3000円/月、旅行や出張時でも容易に持ち運びできる大きさ。

PSA 測定試薬「ナノピア PSA」 第一化学薬品

第一化学薬品は7月19日、前立腺癌検査の腫瘍マーカーである血清中の PSA を測定する試薬「ナノピア PSA」を発売した。同社の独自技術で1ng/mL以下の測定が可能になったのが特徴。価格は緩衝液10mLとラテックス試液10mLがセットで、希望納入価格4万円。

【M.A.N(Medical Academy News) 8月11日号】

「指定科目の見直しで要望書作成へ」9月中旬をメドに厚生省に提出

全国臨床検査技師教育施設協議会・厚生労働省承認大学指定科目検討委員会

衛生検査技師の廃止を受け、厚生労働省承認大学の指定科目の見直しを検討してきた全国臨床検査技師教育施設協議会（会長三村邦裕氏）の「厚生労働省承認大学指定科目検討委員会」は、「臨床検査技師として基本的な知識を得た上で国家試験を受けるという仕組み作りが必要になる」との考えから、科目名を変更した上で、指定科目数を増やす内容の要望書を厚生労働省に提出する。三村会長は、「要望書は日臨技と最終の協議を行った上で、できれば9月中旬をメドに提出したい」と話した。

施設協では、「臨床検査技師として基本的な知識を得た上で国家試験を受けるという仕組み作りが必要になる」と考え、指定科目の見直しを検討していた。4月には、従来の12科目と5科目を履修する2段階方式を、解剖学や公衆衛生学、臨床検査医学総論をはじめとした24科目に一本化した上で、科目名を変更し、指定規則に則した単位数の明示を行うといった案が作成された。

このたたき台について、会員校を対象にアンケート調査を行ったところ、賛成ないし概ね賛成と答えた会員校は88%に達した。この結果を受け、7月26日に検討会を開き、指定科目の変更について話し合った結果、臨床検査技師に必要な教育を受けた者が国家試験を受けるべきという観点から、遺伝子染色体検査も加えるべきではないという意見があり、24の指定科目に1科目加えた25科目にするという案が出た。

委員会では、どの案にするかを早急に検討し、厚生労働省に要望書として提出する予定だという。三村会長は、「この問題に関しては日本臨床衛生検査技師会の協力を得ていたので、各委員に最終確認をとった上で、日臨技と最終の協議を行い、9月中旬までには厚生労働省に要望書を提出したい」とした。

「MR 検査の専門技術者を認定」日本磁気共鳴専門技術者認定機構が発足

MR 検査における専門技術者の認定を進めている日本磁気共鳴医学会、日本医学放射線学会、放射線科専門医会、日本放射線技術学会、日本放射線技師会、日本臨床衛生検査技師会、日本医用画像システム工業会の関連学術7団体はこのほど、認定制度を運営するための機関である「日本磁気共鳴専門技術者認定機構」を正式に立ち上げた。認定者の名称も「MR 専門技術者」となることが決まった。

同機構は、関連学会との連携により、統一的基準に基づいて MR を操作する技術者の認定を行い、わが国の MR 検査技術の国際的な同等性を確保することによって、国民の福祉と社会の発展に寄与することを目的としている。

「ラスムッセン脳炎の診断など承認へ」高度先進医療3技術を了承

中央社会保険医療協議会

中央社会保険医療協議会は3日の総会で、高度先進医療として12医療機関・12件の技術を了承した。このうち新規は医療機関が3施設、技術が3件。新規3技術の内容は次の通り。

グルタミン酸受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断

申請は静岡県てんかん・神経医療センター（小児科、精神科、神経内科、内科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科）。適応症はラスマッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん、オプソクローヌス・ミオクローヌス症候群。これらは、感染症などを契機にてんかん、眼振、小脳失調、片麻痺、精神発達遅滞などを発症する予後不良の自己免疫疾患で、大脳半球切除術やステロイドパルス療法など、侵襲の大きい治療が必要となる。しかし、発症原因と考えられグルタミン酸受容体自己抗体の有無を検査し、正確な診断を下すことで、従来より早期に的確な治療法の選択・決定が可能となる。

腹腔鏡下広汎子宮全摘出術

旭川医大病院（産婦人科）。適応症は早期子宮頸癌（子宮の可動性、進展性が良好で、腹腔鏡操作に支障のない臨床進行期 1b 期までの子宮頸癌）で、腹腔鏡を用いて腔式子宮全摘術を行う。開腹手術に比べて患者への侵襲が小さく、術後早期の離床、退院が可能になる。

一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術

国立成育医療センター（小児科、産婦人科、麻酔科）。適応症は、双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛性双胎妊娠の母児（妊娠 16～26 週）。同症候群は一絨毛膜性双胎妊娠において、胎盤表面の双胎間血管吻合を介して、一方の児（供血児）から他方（受血児）へと血流がシフトすることにより、羊水過小・羊水過多を生じるもので、供血児・受血児とも死亡率が高くなり、中枢神経障害を残す率も高い。これに対して胎盤表面の吻合血管を内視鏡で同定し、レーザー光で焼灼して凝固させ、児の予後を改善させる。

インフルエンザ迅速診断キットで販売契約を締結

シスメックス、大塚製薬

シスメックスと大塚製薬は 1 日、シスメックスのインフルエンザ迅速診断キット

「ポクテムインフルエンザ A/B」の日本国内における共同販売契約を締結したと発表した。両社はこれにより、互いの強みを生かした販売を行い、インフルエンザ迅速診断キット市場でのトップブランドを目指す。

小型の細菌同定感受性検査装置を発売

日本ビオメリュー

日本ビオメリューはこのほど、小型の全自動細菌同定感受性検査装置「バイテック 2 コンパクト」、専用の同定カード「カラリメトリックカード」を発売した。同装置は、高い検体処理能力が求められる大型のバイテック 2 XL とほぼ同等の機能を保ち、小型化した。同定カードにカラリメトリック法を採用したことで、従来の蛍光測定法と比較して精度が向上した。

日本初の PET 検査用放射性医薬品の承認を取得

日本メジフィジックス

日本メジフィジックスは、7 月 25 日、ポジトロン断層撮影（PET 検査）に用いる放射性医薬品「FDG スキャン注」（一般名：フルデオキシグルコース）の製造承認を取得した。同社は、以前から PET 検査への高まる医療ニーズに対処し、「FDG スキャン注」の製造承認申請を行う一方で、国内 8 ヶ所に開設した PET ラボから承認取得後速やかに供給できるよう準備を進めてきた。

=====

JACLaP WIRE, No.86 (2005年9月2日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

本 WIRE の記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1.氏名, 2.現行登録アドレスと3.変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
